

# イスタンブールの大聖堂

モザイク画が語るビザンティン帝国

浅野和生 著

2003年 2月25日 発行

全 207ページ

220781107 弭間美玖



---

## 目的

千年の栄華のビザンティン帝国の滅亡までを理解

# 〈目次〉

- 第1章 「栄光のビザンティン帝国」
- 第2章 「ドーム建築の粋」
- 第3章 「禁じられた偶像崇拜」
- 第4章 「封印されたモザイク」
- 第5章 「さまざまな巡礼者たち」
- 第6章 「ビザンティン帝国の滅亡」

# 第1章 「栄光のビザンティン帝国」

## 〈ローマ帝国の遷都〉

- ・ローマ帝国はもともと現在のローマ市発祥の都市国家
- ・紀元前後までに西アジアや北アフリカの大半を支配  
→空前の大帝国を確立

コンスタンティヌス帝は都を「ローマ帝国」からギリシャ語で「ビザンティオン」、ラテン語で「ビザンティウム」と改名！

# 第1章 「栄光のビザンティン帝国」

- ・ コンスタンティヌス帝は、313年にキリスト教を公認  
→キリスト教の教えはローマ帝国の理念に酷似

このようにして、ローマ帝国は四世紀前半にコンスタンティノポリスを首都

- キリスト教が国教の国家に変身

# 第1章 「栄光のビザンティン帝国」

- 「ビザンティン帝国」：首都が東に遷都  
歴史家→「ローマ帝国」と呼称 **違和感**  
首都ビザンティオンの主張のための呼称
- 東からのイスラム勢力によって領土は次第に縮小  
1453年にオスマン・トルコ帝国によって  
首都コンスタンティノポリスが略奪  
→ 完全滅亡

## 第2章 「ドーム建築の粋」

### ★聖ソフィア大聖堂★

ビザンティオンの人々が「ソフィア」と呼称  
→神のためのもっとも相応しいエピセツト



## 第2章 「ドーム建築の粋」

- 聖ソフィア大聖堂が焼失  
→ 建築家のアンテミオスとイシドロスによって修復
- 聖ソフィア大聖堂は建築技術においても  
画期的な建造物



## 第3章 「禁じられた偶像崇拜」

この時代の聖堂は、壁や天井が聖人の肖像や聖書の物語  
場面などの装飾が多数

しかし、創建時の聖ソフィア大聖堂には  
それらが確認不可！

→人物像の描写の故意的な回避が定説

# 第3章 「禁じられた偶像崇拜」

これらの背景として、、、

キリスト教の考えのモーセの教え「十戒」が基盤

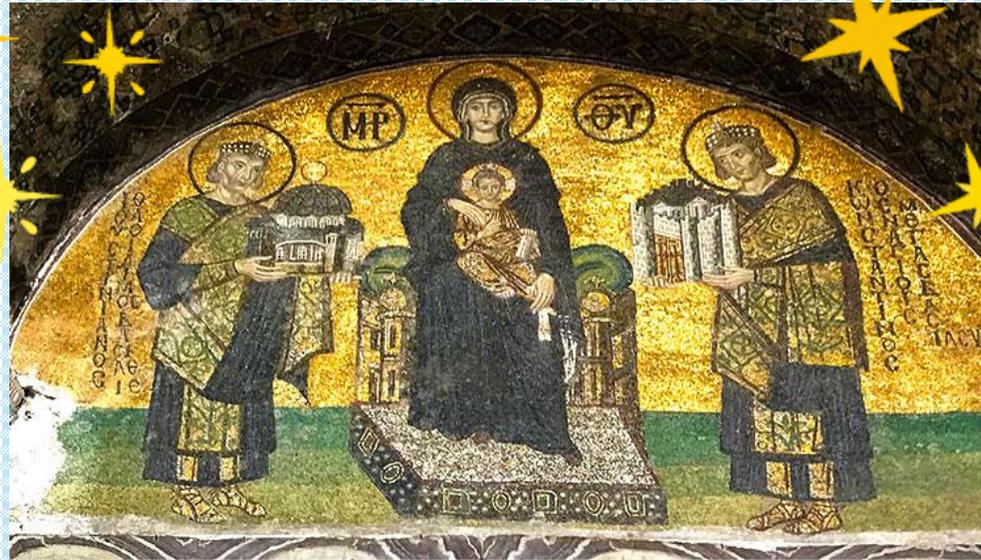
イスラム教では、、、

神とは超越的で不可視の存在→これを絵や彫刻で表現不可能

→「偶像崇拜」として嫌悪

# 第4章 「封印されたモザイク」

聖ソフィア大聖堂のモザイクは聖像戦争が背景のひとつ  
モザイクは首都のもっとも重要な聖堂のもっとも重要な  
場所に製作



# 第5章 「さまざまな巡礼者たち」

コンスタンティノポリスは、長安やバグダッドと同類の世界有数の都市国家

訪問者：商人、巡礼者

→次第にコンスタンティノポリスにも聖遺書が集結  
巡礼の目的地に変化

# 第5章 「さまざまな巡礼者たち」

## 異文化集団の十字軍の戦士たちが コンスタンティノポリスを訪問



# 第6章 「ビザンティン帝国の滅亡」

♪おさらい♪

ビザンティン帝国滅亡 by オスマン・トルコ帝国

---

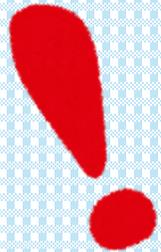
スルタン〈メフメト二世〉によって滅亡

メフメト二世は即位後、毎晩コンスタンティノポリスの  
地図を検討→弱点を搜索

作戦の指導者と失敗理由までもすべて暗記

# 第6章 「ビザンティン帝国の滅亡」

トルコ軍は48日間に渡って街を砲撃  
しかしコンスタンティノポリスの城壁は強く、  
外側を少し破壊→内側の壁には到達不可能



# 第6章 「ビザンティン帝国の滅亡」

ビザンティン帝国は、金角湾の入口に太い鎖を設置  
→敵の船は進入不可

しかし！ある朝、オスマン・トルコ帝国の80隻の軍艦が  
金角湾を突破

船は、数キロメートルのガラタ地区の険しい陸地や山  
から運搬



# 結論

ビザンティン帝国はオスマン・トルコ帝国  
のメフメト二世によって完全滅亡  
細かい作戦や80隻の軍艦の襲来が原因

